

会議等議事要旨記録票

日 時	令和3年12月17日（金曜日）午後6時00分から午後6時40分まで		
場 所	30S会議室（Web会議）		
会議等名	感染症診療チーム会議		
議 題	ゼビュディ投与の適応範囲等について		
参 加 者	チーム会議メンバー、福祉保健局関係部長・課長等		
配付資料	なし		
主な内容	<p>●本日の議題は、都でゼビュディの投与体制を整備していくに当たり、ロナプリーブとゼビュディでは、添付文書の重症化リスク因子が異なっているため、投与の適応範囲や、ロナプリーブとの使い分け等に関して、先生方の御意見をいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼビュディの適応範囲については、米国 EUA ではロナプリーブとゼビュディのリスク因子は同一としていることもあり、必ずしも添付文書に縛られなくてもよいのではないか。 ・ロナプリーブとゼビュディが混在している時は、投与対象を同一にしないと、医療現場が混乱する可能性がある。 ・オミクロン株に対して、ロナプリーブの効果が低いと言われていて、今後、オミクロン株への置き換わりも想定されるので、ゼビュディ一択になることが考えられる。そのことも踏まえ、都では、ゼビュディを必要な人に早く投与できる体制を検討した方がよい。 ・発症予防のための投与に関しては、ロナプリーブを残しておく方策もあると思う。 ・今後、国と学会で方針が決まれば、情報共有を行う。 		
作 成 者	計画課 大宅	確 認 者	東京感染症対策センター担当 課長 濱口